

ヤイロチョウをはじめとした希少野生動植物の保全

活動場所

高知県高岡郡四万十町
木屋ヶ内（こやがうち）社有林（259ha）



写真提供：公益社団法人生態系トラスト協会

活動目的

木材生産のために必要な経済的生産林を維持するとともに、森林が持つ生物多様性を十分に認識した森林保全活動を行うことを目的としています。

活動内容

ヤイロチョウは体長18～20cmほどの渡り鳥で、高知県の県鳥および四万十町の町鳥にも指定されています。春から初夏にかけて日本に飛来し、九州、四国などの照葉樹林で繁殖した後、秋にタイやボルネオ方面へ渡って冬を越すと言われています。しかし、詳細な生態は良く分かっておらず、環境省レッドリスト「絶滅危惧ⅠB類」に指定されています。

公益社団法人生態系トラスト協会（※）によるヤイロチョウ生息調査の結果、木屋ヶ内社有林内にヤイロチョウのつがい複数生息していることが判明。将来にわたってヤイロチョウが生息できる環境を保全するため、2016年8月、同協会と当社は「ヤイロチョウ保護協定」を締結しました。

以降当社は、木屋ヶ内山林において、生態系調査のフィールドを提供し、調査利用を主な目的とした歩道敷設の支援、自治体・ステークホルダーとの意見交換の実施、情報発信の場の提供などを行ってきました。

なお、当該山林の全エリアは「積極的な経済行為を行わず、環境保全・生物多様性保全の観点から必要な場合に保全管理を行う林分」として独自に位置づけ、環境保全林として取り扱っています。

※ 公益社団法人生態系トラスト協会：四国の生物生息空間をネットワークで結ぶことにより生態系保全を目指す。約255haの「四国ナショナルトラスト地」を取得。



PRしたいポイント

王子グループは、2003年11月に「生物多様性保全を考慮した施業方針」を策定し、継続的に取り組んでいます。生態系トラスト協会が実施した木屋ヶ内山林の生態系調査結果により、当社の施業・管理下において希少生物の生息域になりうるということが示されました。更なる生物多様性保全に資する施業管理方法を深耕するとともに、官民連携など様々なステークホルダーとの協働により、環境保全のみならず林業をはじめとする地方活性化へ貢献してまいります。

活動効果、今後の展開 等

- 生態系トラスト協会との協働により、更なる高度な生物多様性保全に配慮した施業方法を検討します。
- 今後も生態系トラスト協会、自治体、地域住民をはじめとした様々なステークホルダーとの協働関係を継続し、生態系の維持、管理に取り組めます。